

『ペンペンぐさのふゆとはる』

かがくのとも 2013年1月号

山根悦子さく 福音館書店



春の花が咲き始めた
……と思っているうちにど
んどん季節は進んでい
き、野原を彩っていた花
たちは、もう実になって
います。 そうなると、あ
れ、これは何の花だった
かしら？ とわからなくな

るものも多いのですが、ペンペンぐさだけは実にな
った時のほうが分かりやすいですね。 茎の周
りいっぱい、三味線のばちのような形の実をつ
けているのを見ると、子どもの頃にペンペンぐさ
の茎を回してシャラシャラと鳴らしたことをなつか
しく思い出すのではないのでしょうか。

でも、ペンペンぐさの冬の姿ってどうだったで
しょう？ 本書によると、あのばちの形の実からこ

ぼれた種は、秋に芽を出すそうです。 芽は春に出
るというものではないのですね！ そして冬の間は
地面に平たく葉を広げ、競争相手のいない冬の陽
ざしを受けているのです。 そこで作った栄養は根
に蓄えられます。 冬のペンペンぐさの根っこって、
長ーいのだそうです。 春になると、根っこに蓄えた
栄養を使ってぐんぐん茎を伸ばし、いち早く花を咲
かせて実を作ります。 背高のつぽのペンペンぐさ
を引っっこ抜くと、冬とは違ってすぐに抜けます。根を
見ると栄養を使いつくした根はすっかりやせ細って
短くなっているとか。

ごく普通にある雑草にも、こんな知恵が含まれて
いたとはびっくり。 ペンペンぐさ(ナズナ)は春の七
草のひとつ。 冬もある緑の葉はビタミンCたっぷり
だそうです。 七草がゆに必須なわけですね。

(小川)